

Title	堂友會記事
Author(s)	酒井, 全太郎
Citation	懷德. 1939, 17, p. 56-58
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/89037
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

堂友會記事

酒井全太郎記

水先生の墓を發見したる報あり、因て同年六月十八日吉田助教授、藤塚書記、野口、太田、山本、酒井、白井、武藤の聽講生と共に、入江來布氏の案内にて同寺を訪ね、赤水先生の墓を掃ひ、先賢の墓を寫眞に收む。

▲支那語講習會 同年七月一日より八月五日迄每週火、木、土曜午後七時より九時迄、關西學院教授張源祥氏を講師として初歩支那語講習會を開く、受講者九十名にして大講堂に溢るゝの盛況なりき。

▲伊藤有不爲齋遺書の受贈 同年七月八日故伊藤介夫氏の遺族より有不爲齋文庫所藏の内、懷德堂關係書籍凡五十九種を寄贈せらる。

(本號附録參看)

▲昭和十三年十月八日

午後二時より恒祭を舉行せられ、會員一同祭典に奉仕する。會誌第十六號を刊行頒布する。

▲十月十六日

懷德堂を會場として、斯文會日本漢學會主催の漢學大會を開催せらる。會員有志數名出席する。

▲十二月十五日

萬葉集講義終りて後、午後七時三十分より小講堂にて期末茶話會を開く。會員音代君の大坂の話、神武天皇の話、成田先生の和歌俳句

詩吟、阪倉先生の洒落の話、吉田先生の支那

▲三月三十日

の瓦の話、藤塚、平田兩君の詩吟、仲田君の朗詠ありて九時三十分閉會する。名物の甘酒を接待する。出席會員は男二十七名、女九名であつた。

▲昭和十四年一月一日

年賀會あり。會員數名參堂、先師儒諸先生の神位を拜す。

▲五月七日

午後七時三十分より小講堂に於て期末茶話會を開く、三十餘名出席する。阪倉先生は萬葉集時代の旅行のことを話され、吉田先生は三宅萬年の逸事及び懷德堂の學風に就て話され、各々閑談して九時三十分解散する。

▲三月二十一日

奈良の石燈籠見學の爲、會員約五十名參加、午前九時大軌上六出發、奈良公園一の鳥居にて待合せてゐられた天沼先生より、各時代を代表する石燈籠の説明を承りつゝ、見學し、午後三時半頃解散する。會員由良君の別荘にて辨當を開く。

▲六月四日

會員三十餘名參加し、大和の長谷寺へ參詣する。牡丹が満開だつた。源先生の牡丹渡來の由來に就て御講話あり、同先生の御指導にて佛像其他の寶物を參觀した。休憩中に本會の總會を開き、會計及び事業報告を承認し、幹事改選は重任のことに決議された。

午前八時三十分京阪天滿橋出發、京都に至り、

源先生の御指導を受けて、三十三間堂の佛像、智積院の桃山時代の豪華絢爛たる繪畫を參觀した。参加會員四十餘名であつた。

▲六月十八日

吉田先生を初め會員有志十數名、入江來布先生も参加せられて午前九時大軌上六集合出發、服部川驛下車、神光寺に至りて三宅萬年、三宅春樓、中村良齋、長崎克之、及び最近木谷、入江兩先生によつて發見せられた井上赤水の懷德堂先賢諸先生の墓所に參拜する。大仙陵、茅渟の浦曲まで見える見晴しのよい所である。

▲六月二十九日

午後七時半開會、期末茶話會を小講堂に開く、阪倉先生の狂言の話、吉田先生の隱語の話、

大江先生の櫻井驛詩朗吟ありて後、會員武藤君の挿話、仲田君の朗詠、岡田君の野菜の話、藤塚君の詩吟ありて九時半閉會する。

▲八月十九日

午後四時二十分難波驛出發、高野山に詣り、惠光院にて一泊、翌朝約二時間にわたり高野山の美術に就て源先生の該博なる御講話を拜聽し、午後、靈寶館にて日本一の繪畫の稱ある惠心僧都の二十五菩薩來迎の圖や、赤不動其他數多の寶物を參觀して下山解散する。參加會員四十餘名ありて盛會であつた。